

神風流



第167号
令和4年5月31日

100年に向けて邁進

全日本詩吟道連盟理事長
詩吟神風流総元

三代目 岩淵 神風

昨年、詩吟神風流はコロナ禍を乗り越え、創始九十五周年大会を開催することができました。皆様方の多大なるご協力で心より感謝申し上げます。また、詩吟神風流二代目総元岩淵神風先生より受け継ぎ、神風流の詩吟を百年、またその後の百年と、伝え継ぐための責務を果たして参る所存でございます。

そのためには、大会開催の意義は非常に大きいものと思っております。毎年恒例の秋季全国詩吟大会、新年全国詩吟大会など、神風流の大会行事は、会員の皆様にとりまして技芸向上に繋がる「学び」の場でもあり、対外的には神風流の詩吟を聞いてもらい新会員が増える機会となる場でもあります。また、神風流の吟友と出合い交流する場でもあります。神風流の大会行事は、長い歴史の中で大変重要な行事として位置づけられ、コロナ禍

により中止した経緯はございますが、毎年欠かさず開催されて参りました。会員皆様方のご協力があつたからこそ実現できたものと感謝申し上げます。こうした大会行事につきましては、毎年の反省点を一つ一つ対処していくことで、より良いものとなり、完成度が高くなっていくはずでございます。百年を見据え、都度、改善をしながら、次に繋げて参りたいと思っております。

また、漢詩や和歌といった優れた古典作品がいま、何を語り、伝えようとしているのかといった視点をもちたいと思っております。先人が遺した言葉に表現されている作者のまなざし、心、描かれている人間の姿や情景等々。神風流の詩吟の節調は非常に多彩であり、それらを私達が吟じることで、素晴らしい言葉が再び現代に蘇るのではないでしょうか。

中には、歴史の中で表舞台から消えてしまった人物の言葉、埋もれてしまった言葉もあります。それでも作品の言葉には「個人」が息づき、その時の「生」の言葉があります。吟詠によって、言葉が躍動し、生き生きとしたものになる時、現代における詩吟の存在意義を身をもって感じます。神風流の詩吟を吟じることは、吟者各々もまた

「歴史に名を刻む」ことなのだと思います。古典作品の場合、解釈は様々であり、人生を重ねれば重ねるほど心に響くという側面があります。詩吟の奥儀への研鑽を積み重ね、素晴らしい漢詩作品の数々に共鳴していただけますよう技芸向上のために邁進して参ります。皆様方のご協力ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

